

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス スマイル津芸濃		
○保護者評価実施期間	2025年 1月 20日		2025年 2月 8日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	32	(回答者数) 25
○従業者評価実施期間	2025年 2月 6日		2025年 2月 12日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 17日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもたちができることの「自由度が高いこと」、「選択肢が多いこと」	子どもたちが、したいことを自由に発想し、提案できるような環境を提供している。また、提案をなるべく形にできるよう、職員が個別・集団での活動を提供している。	スマイルポスト(子どもたちが自由にしたいことや、欲しいもの、気持ちを伝えることが出来る仕組み)をさらに活発化できるようにしていく。
2	職員・子どもがともに「個」の思いを大切にしていること	プログラムが固定化しないように、時間割は大枠のみを決めている。子どもたちが自分で考えて活動出来るようにしている。	「個」と「個」が職員の補助も入れながらつながり、小集団でのかかわりへと発展していくような取り組みを提案していく。
3	活動の幅が広い	職員や、子どもの提案に対して「まずやってみて考える」方針をとっており、「失敗」を恐れない方向性を取っている。	活動の幅が広い分、様々な活動で子どもたちが分散して活動する時の工夫が必要である。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	スケジュール(時間割のような流れ)が弱い所がある。	その日、その日で内容を決めている場合もあったり、ざっくりとした時間割が中心になっているので、「自由度の高さ」はあるものの、流れ通りにいかない場合もある。	どこまでの「自由度」と「スケジュールの作り込み」を重視するかを検討する必要がある。
2	就労等を見据えた「集団での活動」 →個での活動の比重が高い	個での活動を中心に行っていることもあり、個から小集団、事業所での集団活動に結びつきにくい側面を持っている。	学校休業日等の「イベント」から小集団を意識したような、イベントの立案をしていく。
3	「活動の幅」を生かせるような「集団スケジュール」を形にできていない。	活動の幅が広いことで、集団での活動になりにくい部分がある。個の提案から、個の活動にそのまま持っていくことが多いので、個の提案から、小集団への活動にできるものを積極的に取り入れていく。	活動の幅を維持したまま、提案を一度整理し、イベントとして立案をして、子どもたち全体で活動していくものを取り入れていく。